

国際会議「HYDRO2017」

(1) 開催期間

平成 29 年 10 月 9 日（月）～11 日（水）

(2) 開催場所

FIBES Congress Centre（セビリヤ/スペイン）

(3) 参加者

約 1,250 名（76 カ国）

(4) 開催概要

本会議は、欧州域内で毎年開催されている水力発電に関する国際会議であり、今回の“HYDRO2017”は 10 月 9 日（月）～11 日（水）に開催された。

開会セッションでは、国際連合工業開発機関（UNIDO）再エネ・地方電化団長、国際大ダム会議（ICOLD）会長、IEA 水力事務局、ENDESA CEO、スペイン大ダム会議（SPANCOLD）会長、世界銀行（WB）水力シニアスペシャリスト等のスピーチがあった。閉会式では、Aqua-Media 局長他より閉会スピーチがなされた。

また下表の通り、35 のセッションで多くの発表が行われた。この中で、IEA 水力実施協定関連では、Annex-9（水力発電の多様な価値）と Annex-12（水力発電と環境）に関するワークショップが行われた。当該会議では、個々の発表に加えて約 160 の機関や民間会社のブースが設けられ、76 カ国から 1,250 人程が参加した。

表 1 HYDRO2017 プログラム

月日	午前	午後
10/9 (月)	開会式・基調講演 1:危機管理 2:海外協力 3:水力機械:研究 4:土木技術:設計	5:水力への投資への切り開き 6:温室効果ガス管理(IEA session) 7:水力機械洪水予防と水文学 8:水力機械:設計と運転 9:土木工事:施工と材料 10:気候 11:土木工事:改善
10/10 (火)	12:揚水発電(a)(b) 13:自然災害と機器 14:事業計画と実施 15:能力強化 16:水力発電所の安全 17:挑戦的な水力開発地点 18:次世代の水力専門家育成	12:揚水発電(c)(d) 19:ゲートとバルブ 20:ダムの安全 21:環境対策 22:洪水吐 23:環境問題(魚対策)
10/11 (水)	24:取水口と水圧管路 25:水力発電所の改修 I 26:小水力:研究開発 27:堆砂管理 28:水管理事業(IEA session) 29:水力発電所の改修 II 30:小水力:事例紹介 31:送電系統問題	32:社会問題 33:運転保守 34:トンネル 35:電気技術 総括・閉会式

(5) Annex-2（小水力発電）に関する活動成果の普及活動(Session30)

- ・本会議の Conference Sessions のなかの Session30 において、下記タイトルで、日本より Annex-2 のうちのタスク A5（地域社会における持続可能な小水力発電）の活動成果及び代表的な地域社会における持続可能な小水力発電開発の好事例を紹介した。

Sustainable small hydropower for local communities – M. Kashiwayanagi, Electric Power Development Co Ltd, (J Power), Japan; Y. Miyanaga, Central Research Institute of Electric Power Industry (CRIEPI), Japan